

<h1>そだて</h1> <p>第297号</p>	小千谷市 青少年育成センター	〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 0258-82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/
---------------------------	-------------------	---

「小千谷市青少年育成センターの閉所にあたり」

文化スポーツ課 課長 大矢 尚

青少年の健全育成を図ることを目的に設置されておりました「小千谷市青少年育成センター」は、令和7年度をもってその役割に一区切りをつけさせていただくことになりました。

前身である「小千谷市青少年補導センター」が設置された昭和41年から59年間の長きにわたって、多くの市民の方から当施設を利用いただき、改めて感謝申し上げます。

青少年育成センターの主な活動としては、街頭補導活動と相談業務があります。街頭補導活動につきましては、これまで多くの委員の皆様から貴重な時間を差し繰って参加いただき、街頭での声かけ活動に携わっていただきました。

近年は問題等の報告もなく、市内が落ち着いた環境となっていることが活動の成果の表れだと感じるところです。重ねて感謝申し上げます。

なお、青少年の相談業務につきましては、令和8年度に新設される「こども若者家庭センター」でこれまでの業務を引継ぎます。今後も皆様からお力添えいただければ幸いです。



「59年間を振り返って」

青少年育成センター長 大野 滋

当センターは、昭和41年4月に青少年の健全な育成を図ることを目的として「小千谷市青少年補導センター」として設置され、設置場所の移転や改称・改編を経て、59年間活動を推進して参りましたが、令和8年4月の「小千谷市こども若者家庭センター」開設に伴い、その歴史に幕を閉じることとなりました。そこで、開設から役割を終えるまでの歴史を振り返ってみたいと思います。

設置当時の事業は、①児童生徒指導の組織・運営の研究推進と指導・助言、②児童生徒理解の方法の研究推進、③教育相談の理論・技術の研究と日常の生徒指導への寄与、④教育相談の実施、⑤関係機関と連携した街頭補導の実施、⑥青少年非行の原因となっている社会環境の改善、⑦非行少年の早期発見と善導、⑧必要な図書・用具の整備保管の8点でした。

これが現在は、①街頭声かけ活動の実施、②街頭声かけ活動での情報・資料等の収集整備、③非行・いじめ・不登校等に関する相談の充実、④補導委員・相談員の研修機会の充実、⑤関係機関・団体との連携強化、⑥青少年育成センターに関する広報活動の推進の6点となっています。その内容も、59年間ですいぶん様変わりしています。以下に、この間の大きな出来事をご紹介します。

○昭和41年 4月 教育委員会規則によって「小千谷市青少年補導センター」の正式な設置。

6月 東小千谷中学校図書室にて、補導センター開所式を実施。

※ 発足時の相談員は7名(中学校教諭と兼務)、補導委員は52名(市職員1、社会福祉事務所職員1、教育委員会事務局員2、学校教職員32(各校1名)、民生児童委員2、保護司2、青少年福祉委員3、PTA会員2、全国女性連盟3、防犯協会2、警察職員2)。

○昭和42年 6月 相談室2室・事務局を小千谷中学校に、分室を東小千谷中、岩沢中、片貝中に置く。

10月 小千谷市青少年補導センター設置条例により補導センターが運営されることに。

※ この年度の街頭補導の実施日数240日(延べ日数:以下同じ)、従事した補導委員480人(延べ人数:以下同じ)、補導少年13名。相談は学習指導に関する相談を中心に19件63回。

○昭和49年 4月 相談室を小千谷市民会館に新しく設置。

※ この年度の街頭補導の実施日数228日、補導件数132件。昭和50年には、補導委員が増員され57名に。

○昭和54年10月 教育相談室および事務局を小千谷中学校より市民体育館に移転。

※ この年度の街頭補導は従事した補導委員232人、補導少年336名。相談は登校拒否に関する相談を中心に25件73回。

○昭和60年 4月 補導センター移転。4月より新設された教育センターに併設となる。

※ この年度の相談員10名、補導委員52名(学校職員26、警察官2、PTA会員10、青少年育成指導員1、その他13)

街頭補導は従事した補導委員359人、補導少年291名。相談は登校拒否に関する相談を中心に17件157回

○平成 4年 4月 施設名称改定 「青少年補導センター」から「青少年育成センター」へ。

※ この年度の相談員10名、補導委員50名(学校職員25、PTA会員4、その他21)

街頭補導は従事した補導委員198人、声がけた少年527名。相談は学校嫌いにに関する相談を中心に10件11回

○平成 5年 7月 教育センター内に適応指導教室小千谷なかよしルーム開設。H29.4「マイルーム」に改称

○平成 7年 6月 青少年育成センターに「教育相談専用電話」新設。青少年育成係:相談員2名と所長で対応

※ この年度の相談員2名、補導委員35名(学校職員6、PTA会員27、その他2)

街頭補導は従事した補導委員247人、声がけた少年602名。相談は教育相談を中心に321件

○平成 9年 4月 教育センターに教育相談員制度発足。

○平成24年 4月 街頭補導活動の活動名が「愛の一声」活動となる。

※ この年度の青少年相談員2名、補導委員33名(学校職員4、PTA会員28、その他1)

街頭補導は従事した補導委員120人、声がけた少年151名。相談は家庭教育相談を中心に54件

○令和 3年 4月 街頭補導活動の名称が街頭声かけ活動となる。

※ この年度の青少年相談員2名、補導委員33名(学校職員7、PTA会員24、その他2)

街頭声かけ活動は従事した補導委員131人、声がけた少年514名。相談は心のケアを中心に50件

○令和 8年 3月 小千谷市青少年育成センター廃止。

※ この年度の青少年相談員2名、補導委員30名(学校職員9、PTA会員19、その他2)

街頭声かけ活動は従事した補導委員92人、声がけた少年534名。相談は心のケアを中心に46件

このように振り返ってみますと、補導から声かけへ、相談員や補導委員の数や構成、活動回数、相談専用電話の設置、相談内容など、当センターの組織や活動が、それぞれの時代の社会情勢と要請に応じて、変遷してきたことがよくわかります。

このたび、当センターは相談業務を「小千谷市こども若者家庭センター」に移管し、その役割を終えることとなります。これまでの当センターの活動へのご理解とご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和7年度 声かけ活動 実施報告

* 補導委員30人 回数は2回

(1) 実施回数・人数

	実施回数	補導委員数	声掛け人数
6月	5	16	146
7月	7	18	146
8月	2	8	35
9月	4	11	125
10月	2	6	57
計	20	59	509

(2) 巡回場所

場所	回数	場所	回数	場所	回数
園・学校	10	東大通中央通	5	勤少付近	1
JR駅	8	防災公園	5	お店・商店	2
コンビニ	4	公園	6	旭橋付近	1
スーパー	7	神社	3	白山公園	1
本町通り	7	総合体育館	3	その他	4
ホントカ。	4	祭りイベント	1		

(3) 声かけ時の状況

様子	人数	様子	人数
歩行している	119	遊んでいる	45
電車・バス待ち	130	お祭り	52
登下校	24	ゲームセンター	11
駅周辺	49	挨拶・その他	77
コンビニ周辺	2		

(4) 気になって声をかけた行動

- ・自転車のライト（高校生1）
- ・自転車に乗りながらスマホをいじっていた。（中学生1）
- ・歩きスマホ。（中学生2）
- ・制服の着方（高校生2）
- ・ゲームセンターの子どもだけでいた。（小学生2）
- ・お祭り時、暗がりでも爆竹をならす。（小学生6 中学生2）

(5) 年層声かけ人数

	小学生	中学生	高校生	その他	合計
声かけ人数	90	70	263	86	509

★令和7年度の青少年補導委員の皆さん、1年間の活動ありがとうございました。

令和7年度活動報告

□声かけ活動

前ページ、実施報告の通り

□広報活動

機関紙「そだて」を年2回発行しました。小千谷市HPにも公開されていますので、大勢のみなさんから御覧いただきたいと思います。

□相談活動

今年度2月末までの相談件数は46件の電話や面談相談がありました。相談員に話をする事で、気持ちが楽になったとおっしゃる方が多かったです。

□環境浄化活動

7月4日に市内の各所にて環境パトロールを行いました。

＜補導委員の皆さんから寄せられた感想＞

- 私たちの声掛けに対して、子ども～高校生まで良い返事をしてくれた。返事が良いことは普段の生活も良いように思います。
- 防災公園で子ども達が遊んでいたが、保護者・祖父の見守り活動があり安心することが出来た。
- ホントカ。の屋上に高校生が4人スケボーをしていました。話を聞くと小千谷の子だけでなく、堀之内や越路の子もいました。ホントカ。の許可を取ってやっていると言っていました。職員の方に話しを聞きましたが「特に問題はない」と言っていました。
- 初めての参加だったが、各地区の公園、危険な場所はないか巡回することの大切さを感じた。場所を把握することが出来た。次回の活動でもしっかりと声をかけていきたいと思います。
- 注意したのは歩きスマホの中学生だけでした。
- この活動中、同行者と様々な意見交換ができ有意義でした。
- 小千谷高校の生徒が、“町のゴミ拾い活動”をしていたところに、声をかけたら、笑顔での返答があり、嬉しく思う。こういう活動が町の人にも知ってもらえると学校と地域とのつながりが強くなるのではないかと考えました。
- 地域の多くの方に腕章をつけて声かけ活動をさせて頂きました。気になる子どもは少なかつたけれど小千谷市の活動として多くの目で“見守ってますよ”とPR出来たと思えました。

***その他いろいろな感想が委員の皆さんから寄せられました。ありがとうございました。**

◆小千谷市の機構改革に合わせ、青少年育成センターの電話相談は終了します。あすえ～る内に「こども若者家庭センター」が開設され相談業務の移管が行われます。令和8年4月1日より相談業務が開始されます。

青少年育成センター

小千谷市青少年育成センターが、今その役目を終え、長い歴史に幕を下ろします。本当に多くの保護者・教職員・地域の皆様から青少年補導委員になっていただき、市内の巡回や子ども達への声かけをしていただきました。お陰様で大きな事件や事故もなく、子ども達の健やかな成長を見守ることが出来ました。センターを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。青少年育成センターはなくなっても、皆様から引き続き「地域の目」として子ども達を見守っていただけると幸いです。

